

胸の痛み感じたら…24時間診療

信大病院センター開設へ

信大病院（松本市）は九月一日、急性心筋梗塞などで胸に痛みを感じた患者が気軽に受診できる二十四時間態勢の「胸痛センター」を、高度救命救急センター内に開設する。県内では初、全国でも設置する医療機関は数少ない。治療に一分一秒を争う急性心筋梗塞について知ってもらおうと、秋には開設記念の市民公開講座も計画している。

急性心筋梗塞などに対応



松本

センターにある心疾患治療を想定したベッド三床で、常駐する循環器内科医三人を中心に対応する。軽症・重症を問わず、転院や救急搬送でないケースも受け入れる。最初に循環器内科医が診察し、急性心筋梗塞などの心疾患が原因でないかを判断する。心疾患でない場合はセンター内の救急医チームが引き継ぐ。

急性心筋梗塞は、胸痛を感じてから六時間以内に血栓で詰まった場所をカテーテル（細管）で広げる治療をすれ

心筋梗塞患者のカテーテル治療。胸痛の発症後、できるだけ早く治療を始める必要がある。信大病院

ば、心筋の壊死を一定範囲に抑えることが可能で、命が助かる可能性が高くなる。

だが、急性心筋梗塞の患者の約14％は病院に着く前に死亡しているのが現状だ。心因性や神経痛、胃食道疾患による胸痛も多く、痛みを感じてもすぐ病院へ行かず様子を見たり、救急隊が搬送先の決定に時間がかかったりすることが背景にある。

胸痛センターは米国では一般的なシステム。日本では関

西医科大の付属病院が二〇〇一年に初めて開設した。信大病院では循環器内科の池田宇一教授と高度救命救急センターの岡元和文教授が準備してきた。

「結果として心因性や神経痛でも構わない。少しでもおかしいと思ったらすぐに来てほしい」とセンター長を務める池田教授。「センター開設で救急隊や地域の医療機関が搬送先を検討する時間を短縮できるはず」と話している。